



発行：公益財団法人国際労務管理財団（IPM）

東京本部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-6 新宿加藤ビルディング7F
http://www.ipm.or.jp/ TEL：03-3354-4841(代) FAX：03-3354-4847

TOPICS

ページ

理事長より2023年度のご挨拶	1
IPM作文コンクール受賞者発表	2
今月のピックアップ実習生！	3
ベトナム・クアンナム省教育機関に浄水装置を設置しました	
出国前のIPM実習生に日本語教育を始めました！	4
編集後記	

理事長より2023年度のご挨拶



IPMは、1993年に設立され、会員企業の皆様に支えられましたお陰で今年で30周年を迎えることができました。

いつもご支援のほど、誠にありがとうございます。

これまで、幾度かの制度改正がございましたが、これらをより早く、正確に皆様にお伝えし、制度の適正な運用に努めてまいりました。

社会情勢では1997年の金融危機、リーマンショック、東日本大震災、感染症では、サーズの流行や新型コロナと海外との交流に支障となる出来事も多々ございましたが、皆様からのご助言やご協力の下、今日に至ることができました。

外国人材の受入れは、ペルーからスタートし、これまでにはモンゴル、中国、ネパール、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、タイ、インドネシア、カンボジアからの受入れ実績を積み重ねてまいりました。今後も、実習生を送り出している各国や送り出し機関との関係を強化し、信頼できる財団としてお力になりたいと考えておりますので、何かご意見やお困りごとがございましたら何なりとIPM職員にご相談ください。

技能実習制度は今年度中に改訂が予定されております。より会員企業様が笑顔になれるような法改正が出る様努力してまいりますので、引き続きご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、IPMは以下を目指して、皆様をサポートして参ります。



協心で創造する「五方笑顔」

**私たちIPMは、国際的な人材交流を通じて、
国境を越えた心のつながりを創造します。**

人から人へ、手から手へ「心の通う専門サービス」を提供します。

IPM作文コンクール受賞者発表

〈金賞〉西予市野村介護老人保健施設つくし苑 リナ エンブレグさん「私のやりたいこと」
 〈銀賞〉三池工業株式会社 王 世帥さん「お久しぶり」
 〈銅賞〉株式会社武蔵野（横浜工場） グエン ティ トゥー フォンさん「これから頑張らないと。。。」

31回目を迎えたIPM作文コンクールには、技能実習生や建設就労者から約30作品の応募がありました。沢山のご応募ありがとうございます。

金賞を受賞されたエンブレグさんは、日本の介護サービスを、モンゴルでも役立てようとの決意を感じるものでした。ご応募いただいた作文はどれも熱意がこもっており、皆さん

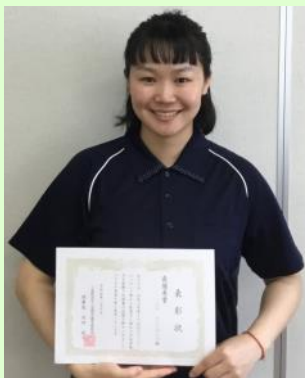
が就労や生活に励んでいる様子がありありと伝わってきました。内容だけでなく、文章としての日本語も美しく、日本語学習へのたゆまない努力を感じました。

皆さんには日本語学習を前向きに取り組んでいただくとともに、実習生の皆さんは日本での生活が実りあるものとなりますよう、切に願っております。

受賞作品の一部を紹介します

〈金賞〉リナ エンブレグさん「私のやりたいこと」

やりたいことは、人に喜びを与えることと、幸せを与えることだと思っていた。日々熱心に日本語を勉強し、日本の介護施設で働く機会を得た。介護職員として働くと、利用者は職員に



大きく影響されることに気づき、自分が最後まで見守ることでも少しでも笑顔を与えられるところにやりがいを感じ、これこそが自分のやりたかったことだと気づいた。将来は日本での経験をモンゴルの介護分野で役立てたい。

作文を書くことで、もう一度日本に来た目的を強く思い出す機会になりました。。

最優秀賞をいただいたことで、もっと頑張りたいという気持ちになりました！

日本での生活や実習を大事にして、モンゴルへ帰ったら勉強したことを実現したいです。

〈銀賞〉王世帥さん「お久しぶり」

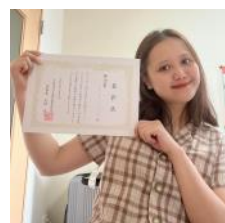
実習のために費やした三年間という時間は、長くも短くもなく、変化することも変化しないこともあるが、自分を変えるには十分な時間だった。三年間の間に料理を覚え、人と人のつながりを大切にし、孤独な時に自分を強くすることを身につけた。この三年間の日本生活に感謝します。

3年間の日本生活が終わり、帰国後に受賞の知らせを受けました。いつかまた日本に踏み入れ、人生を彩れたらと思います。



〈銅賞〉グエン ティ トゥー フォンさん「これから頑張らないと。。。」

コロナで日本に入国できず、渡航を迷っていたが、最後まで来日をあきらめなかった。念願の渡航後、日本では仕事の仲間に支えられながら、経験と知識を積み、さらに日本語のレベルもあげている。辛いときは、「今選ぶ道が難しいと感じる時こそ正しい道であり、これから成長していける」と心に掲げ、踏ん張っている。



日本で成果を収めることができ嬉しく、すぐ両親に電話をしました。両親のためにもっと頑張りたいです。

今月のピックアップ実習生！

今回は、介護技能実習生4名が働く「社会福祉法人 邑元会（ゆうげんかい）」様を訪問しました。実習生が日本の職員に負けず一生懸命実習しているという嬉しいお言葉をいただきました！

【邑元会様からのコメント】

モンゴルの特定技能2人を昨年採用し、技能実習生4人との間で外国人による介護実習が回り始めま



した。コロナ感染対応についても指示通り動いてくれ、さらに明るい性格が施設利用者には喜ばれています。

12月22日にバトフー社長が施設を訪問時にはもっと日本語を勉強する様に叱咤激励、指導者の厳しさもあり、実習生の日本語力は順調に伸びています。

指導の際、日本人職員には、実習生の作業目標に沿った

指導を忘れないよう指示しています。また、実習生の立場と人権を尊重し、両者の円滑な関係作りに注意しています。

【実習先での日本文化とのふれあい】

実習生たち4人は施設で開催された年末の餅つき大会に参加しました。ほかにも、モンゴルの生活について紹介しました。施設の利用者様は、モンゴルの文化に興味津々であり、興味深くお聞きになられていました。ご利用者の方は幼き頃を思い出して笑顔になり、この企画は大好評でした。



ベトナム・クアンナム省教育機関に浄水装置を設置しました



2023年3月24日に理事長の池田がベトナム・クアンナム省のリートウーチョン民族全寮制中学校を訪問し、日越外交関係樹立50周年及びIPM設立30周年の記念事業とし

て浄水装置を設置し寄贈しました。

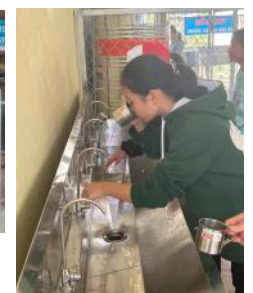
IPMでは、2018年にクアンナム省と「技能実習生の適正な送出し及びそれに付随する青少年の育成支援の一環として浄水装置の設置活動」について合意、2019年1月には同省教育訓練局と全8基の浄水装置設置計画（民族寄宿制学校優先）に関するMOUを締結しました。

これを受けて、2019年に第1号基を設置し、その後毎年1基ずつの設置を予定していたものの、新型コロナウイルスの世界的流行により中断を余儀なくされていました。

今般、日越外交関係樹立50周年及びIPM設立30周年の記念すべきタイミングに設置計画をようやく再開、第2号基の設置に至ったものです。



設置した浄水器の写真



浄水器の水を飲む生徒

失踪防止について



外国人技能実習生の失踪を発生させないために

失踪の原因

- 賃金等の不払いなど、実習実施側の不適切な取扱い
- 入国時に支払った費用の回収等、実習生側の経済的な事情

令和3年には技能実習生の失踪者数は7千人を超えています。失踪した実習生の主な理由は、実習の不適切な取扱いと、実習生側の経済的な事情です。

失踪を未然に防ぐためのポイントは3つあります。

① 仕事内容について納得感をもってもらうこと

業務内容をよく説明することで、技術習得への道筋や、業務への責任感が生まれてきます。

② 丁寧な労働条件の説明

実習生の言語に対応する雇用契約書及び雇用条件書を提示して説明し、必要に応じて通訳をつけるなど、実習生の理解を得ることが望ましいです。特に、賃金については支給額だけでなく、控除される税金・社会保険料や、食費等を徴収する場合はその目的、内容等について丁寧に説明することで、トラブルを未然に防ぐことができます。

③ 異文化への尊重

お互いを尊重することで誤解が生じないようにすることができます。文化や言語の理解力等の違いから、指導の意図と反して誤って伝わる場合もあります。日ごろのコミュニケーションや、相手の状況に合わせて丁寧に指導をすることで、信頼関係の構築につながります。

実習生は、日本とは文化が異なる国からやってきます。実習生の立場を考慮して、コミュニケーションを心掛けていくことで、お互いにより良い実習や関係性を作り上げていくことができるのではないのでしょうか。



詳細は出入国在留管理庁からもご確認ください。

https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/nyuukokukanri07_00153.html

出国前のIPM実習生に日本語教育を始めました！



日本語教育推進部の新たな取り組みとして各国の送り出し機関と連絡を取り、出国前のIPM実習生にWEBで「楽しく会話しましょう」を開始いたしました。

現在6か国12か所の送り出し機関の実習生と会話授業をしています。日本に来る前にIPMにはこんな日本語の先生がいますよ、日本人と会話して緊張しないように練習しましょうとの思いを込めています。

今後も続けて日本に来る全実習生と顔を合わせ会話をし良い関係が築ければと思います。

編集後記

IPM総務部の手塚と申します。2023年4月に新卒で入団し、新しくIPMニュースの担当になりました。文章を書くお仕事は初めてですが、IPMの活動内容や有益な情報を分かりやすくお伝えできるよう精進してまいります。よろしくお願いいたします。(手塚)

● 次回は2023年8月1日発行予定です